「 兎 」 日本画（20 号Ｆ）

作者　古田　年寿

＊設置場所　福祉の家

＊経歴

1966　津島市生まれ
1990　愛知県立芸術大学卒業
1992　愛知県立芸術大学大学院修了
現在　愛知県立芸術大学非常勤講師
　　日本美術院院友

＊コメント

数年前、ある女子高で美術の非常勤講師をしていました。そこの西洋美術史の授業でスーチンの死んだ兎が吊るされた絵を見せたことがあります。その時、近くにいた生徒の一人が誰に語りかけるでもなくこんなことを言ったのです。「犬や猫は痛くて苦し時、声にすることができるけど兎はそれができないもんね。」それは私が期待していた言葉とは程遠く高校生にしてはなんて稚拙な感想なんだろうと気にも止めませんでした。ところが、授業後冷静に考えてみると彼女の言葉も満更ではないと思えてきたのです。動物学的に詳しいことはわかりませんが、確かに兎の感情表現の方法は我々一般人には顕著に伝わってきません。ただ、彼女は純粋に弱者への慈しみの念を抱いていたのです。私は、この素直な言葉に忘れかけていた大切なものを思い知らされた様な気がしました。そして、月日が流れた今でも時折この言葉を思い出します。